

233

財政 界界

膝栗毛

特242

832



* 0 0 0 4 7 8 4 0 0 0 *

0004784-000

特242-832

政界財界膝栗毛

奈緒順・著

東亜書房

昭和11

ABC

この著作物は、著作権者不明のため、著作権
第67条の規定に基づき、平成12年3月2
けで文化庁長官の裁定を受け使用するもので

特 242
832



奈緒順著

政界財界膝栗毛

東京東亞書房



目次

政界膝栗毛の巻

ふり出し……………	(五)
財産を質に入れて……………	(六)
意外！ 最高點で當選……………	(一〇)
政友會の秋波……………	(一三)
大世帯の分裂……………	(一六)
政黨と財閥の因果關係……………	(一九)
疑獄事件の手引き……………	(二四)
地に墜ちた名なし星……………	(二六)

財界膝栗毛の巻

四

大富豪初代物語……………	(二六)
一、反物切賣で當てた三井……………	(一九)
二、達眼の彌太郎が築いた三菱……………	(三一)
三、銀銅吹分けで當つた住友……………	(三三)
四、算盤から割り出された安田王國……………	(三五)
五、緑茶の宣傳に盡した大倉……………	(三七)
六無一文で鑛山王の古河……………	(三九)
絲平の豪遊……………	(四一)
財界膝栗毛悲歌……………	(四三)
悲戀の郷誠之助……………	(四四)
財界の異色小林一三……………	(四七)
宣傳屋伊藤ハンニの末路……………	(五〇)

政界膝栗毛の巻

ふり出し

齋藤松五郎は、東北の弘前青森に程近い漁村の資産家に生れた。彼齋藤が資産家だと云つても、一寒漁村の素封家にすぎないのだから、その財たるや多寡のしれたものであらう。

齋藤は非常な政治狂だつた。彼の政治狂は所謂名譽欲からだつたらう。とも角、彼は、社會を論じ、國家を論じ、當時村會議員だつた彼は、村の小學校に於て開かれた村會の壇上に、村會の議題とは凡そかけ離れたものを論じ來たり、論じ去つて得意だつた。

さうした彼は、村會議員から、まもなく縣會議員に出世した。

齋藤は大學はおろか、中學も卒業てはゐない、村の小學校を卒業しただけの生粹の漁師だつた。その彼が、村會數年の經驗で、縣會議員に當選出來たのは、勿論彼の背景たる財力にも依るが、彼が雄辯だつたと云ふ事にも歸因するといへる。

五

板舟事件がなかつたなら、三木武吉は政界の惑星だつたらう。三木が參與官になれたのも雄辯の賜だつた。その三木の如く齋藤もなか／＼の辯達者だつた。

齋藤が、縣會の壇上で獅子吼したものはなんであつたか、と云ふなら、

一、彼の住居する漁村の背後にある、四十萬坪の官有林を縣に拂ひ下げてもらふ事。

二、彼の漁村に鐵道を敷いて、此の官有林から出る材木を縣に運送する。

以上の二つが實現し、實行されるなら、漁村は勿論、縣は忽ち有卦に在るだらうと結論したのである。この齋藤の熱辯が、非常に縣會にうけたのだつた。

その彼の雄辯を、政友會の岩崎勳に認められ、後年、齋藤は岩崎の知遇を受ける事になつた。

例の松島遊廓移轉事件は、彼が畫策し、黒幕となつて、親分の岩崎は勿論、時の宰相若槻禮次郎、憲政會の長老箕浦勝人、政友本黨の床次竹次郎、高見之通等を、糸をたぐる様に引きだして來たものだつた。

財産を質に入れて

大正九年二月二十六日、原敬は突如議會を解散した。此の原内閣の抜打ち的な解散には、反

對黨も驚いたが、與黨たる政友會員も駭いた。實に、此の議會解散は、首相原敬と與黨の最高幹部が領りしるだけだつた。

此處で、當時の政界の情勢を語る事にしやう。

藩閥の領袖山縣は、政黨内閣の出現を最も嫌ふ第一人者だつた。

しかし、當時の世相は、山縣等の如き特權内閣を夢みる者を遠く押し流して、自由主義の華麗な花が咲かうと云ふ時だつた。西園寺が、原内閣を奏請するまでもなく、政黨は、藩閥特權内閣を斃してこれに替つてゐた事であらう。

原内閣の出現は、憲政史上最初の政黨内閣だつた。閣僚の全部が政黨人だつた。

だが首相原敬には野望があつた。

政黨が藩閥の牽制を受ける心配なく、その政黨政策を實現するには力が必要だ。即ち、他黨が藩閥を組んでも、それを押しのけられるだけの力が必要である、と云ふ事であつた。だから反對黨が提出して來た普選法案を、國民に多數の輿論に問ふ形式で、意表にいでて議會解散をやつた。

當時の政黨分野は

政友會	一六二	憲政會	一八
國民黨	三一	政交俱樂部	三二
新政會	二二	無所屬	一四

この政黨分野から推して見るなら、議會を解散する迄もなく、議會に於て政府に二十名餘を勝超して、普選法案を葬つてゐた筈。だが、原はこれを押し切つて、政友會二百八十餘名の絶體多數黨にしてしまった。

此の總選舉の時、岩崎は齋藤に立候補を進めたが、實の處齋藤にはそれだけの自信が無かつた。だが、岩崎を始め縣會の數人が熱心に進めるので、彼も、遂その代議士になる氣持に燃えて來た。そして、政友會は彼を公認してくれるものだらうと想つたからだつた。

齋藤は逐鹿場裡に立候補する事を宣言した。勿論、彼の立候補理由は先に縣會で發表した、官有林の拂ひ下げ、鐵道敷設。この二つの題目である。

此の齋藤の題目は、又政友會の題目でもあつた。

政友會は、政權擴張の方法として、地方農漁村に、河川、港灣の改良、鐵道敷設、學校増築等を約して、今日まで黨勢の擴張をして來てゐる。

この政友會に對立する憲政會は、野黨の戰略として、國民負擔の輕減を唯一の武器にして今日迄闘つて來てゐる。憲政會の前身、即ち、民黨が地租輕減を提げて、數度の解散にも屈せず藩閥政府に抗爭した事に依つて、憲政會の地盤が、多く都會に養はれて來た譯である。

齋藤は、政友會の公認を首が細る思ひで待つた。だが、彼の豫期に反して政友會からは公認されなかつた。

齋藤を推舉した岩崎勳は、政友會の策戰本部は勿論、支部にも彼の立候補公認を交渉したのであつたが、村會議員數年、縣會議員當選一回の閱歴しかない齋藤を、公認しなければならぬ程、當の政友會は人物拂底はしてゐなかつた。齋藤如き駈出しを公認する前に、まだ公認しなければならぬ人物が餘つてゐた。

彼の公認に支部が反對して來た。

公認が結局駄目となると、彼は思惑がはづれてがっかりした。立候補を宣言してしまつた齋藤はだからと云つて、今更引込む譯にも世間の手前行かない。分の悪い闘である。だが今とな

つては男の意地、あるだけの資産を傾けても勝たなければならない決戦である。彼は全財産をあつさり抛出して十数万圓の選挙費用を捻出した。

意外！ 最高點で當選

代議士になる。

即ち選挙に勝つには、次の、地盤、看板、鞆と三つの条件が必要である。

地盤は、政黨の公認である。看板は、候補者の抱く政見、経歴手腕と云つたもの、鞆は金である。買収に必要な金である。これを稱して三パンと洒落るのである。

では、此の三パンのうち地盤が最も大切だかと云ふなら、次の

一、丸抱へ

二、分け

三、自前

候補者は普通、此の三つの方法によつて逐鹿場裡に闘ふより方法がない。第一條の丸抱へと云ふのは、候補者の人物経歴が確かであるとすると、黨はこれを公認して、選挙費用の全額、

演説の應援、推薦状の凡て迄政黨が世話をしてくれるのである。第二條の分けとなると、演説の應援、推薦状の點、なを公認料を黨が出してくれるが、残余の選挙費用を候補者が持たなければならぬ。第三條の自前となるなら、説明の要はないだらう。

政黨が、候補者に分配してやる公認料と云ふものは、普通どの位の額かと云ふなら、最低二千圓から最高五萬圓位なのである。その他、政黨の領袖連が、乾分を養ふ爲に、この公認料とは別に、相當の金額を提供してやるのである。

故に、昭和三年の第一回普通選挙の時など、公認料、親分の分前にあづかつて、候補者の多い者になると、一人八萬圓からの現金を握つたさうである。又、時の首相田中義一は壹百萬圓内相鈴木喜三郎は百五十萬圓、床次竹次郎は八十萬圓の大枚を、それ／＼、乾分に分けあたへたと傳へられてゐる。

齋藤は、所謂自前で選挙戦上に鹿を逐はなければならぬ、不利な立場にあつたが、なにしろ十数万圓と云ふ鞆のふくらみがものを云つた。彼は、此の金額の八割までを投票買収に使つた。

當時は、一票の買收價格が五圓と云ふ相場であつた。まして當時の農漁村は、買收される事を一票の持権のやうに思つて應じて來るのである。

齋藤の買收戰術は、世評の豫期に反して最高點で當選した。代議士の金的を射止めた彼の持意や想ふべしである。

此の當時の選舉は表面はとも角、蔭へ廻ると華かな買收戰の應報だつた。鬪に勝つには、唯買收の一手である。そして當時は、いまだ歐洲戰亂の成金氣分が覺めやらず、殊に、島根縣二區に於る、櫻内幸雄（政友）對、野津孝次郎（憲政）の決戰の如き、この買收戰の雄たるものだと言はれてゐた。

野津は、好景氣に乗じて七百萬圓と云ふ大枚を儲けてゐた。所謂富豪の列にもこれではいる事が出來た。この上は、人間せめて地位と名譽が愆しい。なれる事なら、代議士の榮冠にありつきたいものだ、野津は、その巨萬の財を背景に、買收一點張りの戰法で、三十五萬を選舉に投じたのである。

これに抗爭する櫻内幸雄は、野津の買收一本槍を監視するばかりに、町村の青年を動員し

その數の多い時には、實に六千名に達し、それに要した金額二十八萬圓と云はれてゐる。

一票五圓の相場が、昭和三年の普選には一票一圓に下落した。

だが、此の時の、徳島縣の如き激戰地では、一票一圓の相場が十圓にもプレミアムがついた。

又秋田縣某の如きは、約二萬票の得票の爲に、二十五萬圓を消費してゐる。これなど、一票十圓をはるかに越えるものである。

政友會の秋波

齋藤が最高點で當選したとなると、公認もしてくれなかつた黨本部及び支部から、祝の電報が舞ひ込んで來た。

代議士の榮冠を買ふ爲に、全財産を抛つた彼は、一生を政界に生るつもりで、政友黨員となつた。政友會に入黨する事は實際の處彼としては不本意だつたのだが、事情は次に説明する如く、涙をのんでの入黨だつた。

齋藤は、己れの辯説に惚れてゐた。その雄辯を持つて、議政壇上の英雄となる夢を描いて彼は上京して來た。

相手に満足さして、歸郷さしてやらなければならぬ。

火災、水害等には見舞もする。

時には、有志の息子の就職の世話から、媒酌の役目もはたさなければならぬ。

代議士の歳費は當時三千圓であつたが、かうした事に歳費の二千圓が消費されるのが通例であつた。さうして、有志の世話をやいて置かないと、代議士たる者安心が出来ないのだつた。

齋藤は始めて代議士になつてみて、はたでみる程、代議士商賣とは樂なものではないものだ、つらく味はつたのである。

大世帯の分裂

原敬が、東京驛頭に於て、一青年の兇刃に斃れるや、政友會本部は勿論、政界はあげて鼎の沸くやうな騒ぎとなつた。

原について、高橋是清が首相になつた。

政友會は、原の如き傑出した統帥者に従つてこそ、一絲亂れざるものがあるが、高橋には、

それだけの統帥力も權勢もなかつた。要するに、政友會總裁は高橋には尙が勝ち過ぎてゐた。

黨内に乾分三十人を養へれば、樂に大臣になれると云はれてゐる。政友會は、實に此の親分の多い處である。

當時の政友會大幹部と云ふものをあげてみるなら、副總裁の野田卯太郎、中橋徳五郎、床次竹次郎、横田千之助、岡崎邦輔、山本達夫、元田肇、田健次郎、小川平吉等、乾分の三十や四十養つてゐる領袖連が多かつた。此の上になつのが高橋是清と來てゐるのだから、此處に領袖連の統一がなく、大政友會分裂と云ふ悲劇になつたのも當然であつた。

此の分裂の原因となつたものは、中橋、元田を閣外に追つて、これに替るに小川、田を持つて來やうと、謀將横田が畫策したものに依るのである。だが、横田一派に排撃される當の中橋元田が、いつかな閣内を去らうとしない。黨は、内閣改造派と非改造派とに對立して愈々軌轢が激しくなつて來る。これに腐つた高橋は内閣を抛出してしまつたのだ。

次いで、内閣主班の座に坐つたのは、樞密院議長清浦奎吾であつた。此の清浦内閣は純然たる特權内閣、貴族院内閣だつた。即ち清浦は研究會の傀儡となつて内閣を組織した譯である。

政友會内の紛争は、此の清浦貴族院内閣を助けるか助けないかに、そのまゝ進轉して行つた。内閣援護派は、前の内閣非改造派であり、内閣非援護派は内閣改造派だつた。此の二派の對立が激奮して、その止どまる處を知らない情勢に、清浦内閣援護非援護は總裁一任と云ふ事になつた。

高橋總裁は、現内閣非援護を聲明し、政黨政治の純理論から推すなら、特權内閣は排撃すべきものである。自分は今日爵位にあるが、政黨政治の領袖と云ふ立前から、爵位を返上し、一平民となつて政戰場裡に闘ふといふことを宣明した。

だが、此の黨議 無視して中橋、元田、床次、山本の四領袖が脱黨し、これに續いて脱黨する者百四十九名、政友會に残留した者百二十九名と云ふ大分裂となつた。

脱黨組は床次を黨主におして、政友本黨を結成し、清浦内閣の與黨となつた。

齋藤は親分の岩崎と俱に残留組だつた。

清浦内閣は、政友本黨百四十九名の與當を得たが、護憲三派、聯合軍のために惨敗して潰れ

てしまつた。

此の第十五回總選舉に於て、高橋是清はその宣明の如く、辭爵して、赤坂表町の邸宅 選舉費調達の爲抵當にいれ、田子一民を相手に宮城縣に、血戦したのだつた。

齋藤は今度は丸抱へで二度當選した。

政黨と財閥の因果關係

政黨と云ふ處は金のいる處である。普通、年に經常費が二十萬、三十萬と必要なのである、これが一度總選舉となると、數百萬圓に膨脹して來る。

清廉の士犬養毅は、革新俱樂部の郎黨を引具して、政友會の軍門に降る時、次の如く述懐して曰く。

自分は、貧乏太郎でいつも不自由してゐるが、何分、今日の政黨は金が必要。その爲、國民黨を解いて、革新俱樂部となし、自分は責任の無い地位に立つてみたが、矢つ張り續けて行く事は困難である。

今となつては、斯様にする外に致し方はないではないか……

又、憲政の神尾崎行雄は

二〇

政權は金で買ひ得る。それは一番多額の金を支拂つた者に落札する。と、喝破してゐる。

政黨は、いざ選舉となると、代議士を傘下に集める爲に、莫大な公認料を撒かなければならぬ。その數百萬の選舉費は、黨幹部に依つて掻き集められて来る。此の如く、政黨が資本主義化するところに、一部の財閥、小數階級の擁護政治の弊害となり、政黨の墮落となつて来る。

在野十年の憲政界が、一絲亂れず加藤高明の傘下に團結してゐたのも、加藤が三菱の愛婿である事に起因してゐる。三菱を背負つてたつてゐる加藤が、まさか選舉費で困らせるやうな事もあるまいと云ふ心理が、黨全體に作用してゐた事も確實だ。又、加藤は、此の在野十年に六百萬圓を捻出してゐると云はれてゐる。

これに對抗する政友會は、副總裁野田卯太郎が三井の顧問である。此の兩巨頭を通じて、二大財閥から黨費が調達されてゐる譯だ。

又、此の二大財閥が政友、憲政に別れて對立してゐる遠因は、三菱が大隈の參議時代から特

殊關係を結び、官邊の庇護を受け、その後、革進黨係に依つて政治上の恩惠を受けついで來てゐた。

その一方の財閥三井が、自由黨係に依つたと云ふのも當然である。

加藤第一次内閣が成立して、二年餘の期間に三菱は、鐵道や鮮滿方面の事業に依つて七千萬圓の利得をしたと傳へられてゐる。しかし、どう云ふ根據により、どう云ふ具合に儲けて來たかと云ふ事は明瞭ではない。

とも角、加藤内閣の成立に依つて、三菱の競争相手たる三井が、三菱の爲に壓倒され勝ちなので、これ以上、憲政會内閣が続いた日にはやりきれないと云ふ事になり、三井が例の臺銀コイルを盛んに引き上げた。そのことが若槻内閣を倒壊させた原因になつたのだと云ふ風評である。

時の藏相片岡直温は、經濟界大混亂の導火線をなしたものは、三井銀行が無理矢理に臺銀コイルを引上げた事に端を發してゐると、あきらかに皮肉くつてゐる。

政黨の金穴と云ふものは、即ち利權漁りである。森林拂下げ、發電水利權の認可、取引所設置又は増設、電氣鐵道の敷設許可、遊廓の移轉等、等、政黨の幹部連がこれを畫策するか、これら幹部連に一脈通する徒輩が策動して來るのである。

他に、日本銀行の利下げ、米作の豫想等を世間一般より早く知り、その材料に依つて儲けるのである。

第一回普選當時にあつたての利權問題は、

樺太の森林拂下規則の改正

神戸取引所の生絲上場

大連取引所の民營

東京大阪高速度電鐵の認可

等の利權問題に依つて、政黨は三百萬圓を調達したと云はれてゐるが、例に依つて例の如く門外漢の窺知出来るものではない。

又、特殊會社銀行は、半官半民の經營であり、その社長なり總裁は政府に依つて任命されるので、時には政黨政治に相結托し、政黨の喰物となつて大穴をあける危険があることもある。

東洋拓殖會社（鮮滿を營業區域とす）が、北海道の或る草原地帯を擔保に數十萬圓を貸付け、滿鐵が、ほとんど必要としてゐなかつた塔連炭坑を二百萬圓で買収したの如き（これは刑事問題を惹起してゐる）。此の買収關係者には政友會の森格がゐた。そして、二百萬圓が、大正九年の選挙の數日前に森の手に渡つたさうである。

その他、各官廳の機密費も、政黨の選挙費に流通されたなどと云ふ事もあつた。

大正十三年の選挙には、朝鮮總督府の機密費が文なしになつたとの噂である。例の田中大將に係はる、陸軍機密費事件と云ふのは、二千四百萬圓のシベリヤ出兵の機密費が、正當の順序で支出されずに、その幾分かを、田中が政友會入黨の際の持參金にしたと云ふのである。

當時の議會に於て、清瀬一郎等が此の問題で、田中首相に喰ひさがつたものである。次に、勅選議員は普通二三十萬圓だと云はれてゐる。勅選で推舉してくれた政黨に、その金額を獻金するのである。

以上の如く、政黨は選挙に必要な金を、多方面に渡つて金策するのである。

高橋が政友會の總裁を追はれたのも、總裁としての金策が出来兼ねたからに依るのである。高橋を黨から追はうとした。即ち雁首のすげ替を策謀したのは、黨の幹部數人だつた。あらかじめ用意して置いた五十萬圓の約束手形に捺印せよと高橋に迫つたのである。五十萬圓なぞと云ふ大金は當時の高橋に出来兼ねる金額である。高橋は捺印を拒絶した。それを口實に、高橋は引退を餘儀なくされた。

流石の高橋も、黨幹部の策動には腹にすえかねないものがあつたと見え、總裁引退を黨に計らずに、當時の首相加藤高明に洩して、政友會の幹部連を狼狽させた。

高橋に替つた雁首は、おらが大将田中義一である。その時、田中は政友會の幹部の前に片手を突出した。その片手と云ふのは五本の指、持參金の價格である。田中は五十萬のつもりで片手を出したのを、幹部は五百萬と解釋した、などのナンセンスな話もある。

疑獄事件の手引き

さて、吾が齋藤松五郎は、代議士に當選二回。政黨の裡に數年生活してみても、政黨のあらゆる操りを理解する事が出来たのである。さうして、此の頃では所謂平の代議士ではなくなつた

彼は、そろ／＼利權獵りへと手を出し掛けた。

齋藤が熱心に首を突込んでいつたのは、松島遊廓の移轉である。遊廓一つの移轉、簡単に考へれば簡単なものだが、遊廓が右から左に移轉されるその事によつて、その街が繁榮もし衰微もする。又、遊廓當事者の利益も莫大なものとなつて來るのである。

此の遊廓の移轉を決定する権利を持つ者は代議士である。即ち、代議士を擁してゐた處の政黨である。此の政黨を上手に利用し、議會を多數で押切るなら、遊廓の移轉は可能である。

此の如く政治と密接して利益の伴なふものが利權である。故に政黨は利權をかざしてみせて利權屋から金を得る。利權屋は又政黨に金をばら撒いて利權を得やうとするのである。

政黨と利權屋は一種の腐れ縁である。

齋藤は、松島の遊廓移轉問題を親分の岩崎に獻策した。此の獻策に依つて、岩崎は政友本黨の高見之通と俱に、遊廓移轉問題の黒幕になつた。

此の疑獄事件が、どこからどうほぐれて來たものか、政友本黨の總裁床次が、高見より三萬圓を收受した疑を受けて、床次が表面に浮いて來る。續いて、憲政會の長老箕浦勝人が登場し箕浦は時の首相若槻禮次郎を偽證罪で告發するの景物がついて來る。

疑獄の内容はとも角も、時の首相、政黨總裁、政黨の長老、幹部等が登場して來たのであるから、大疑獄としての華麗そなはざるなしで、一般社會の注目の的となつた。

だが、事件中場で、黒幕の岩崎勳が病歿してしまつた。そして大山鳴動鼠一匹式に箕浦、高見が無罪になつて疑獄事件の幕を閉ぢた。

地に墜ちた名なし星

岩崎の病歿は齋藤にとつて大打撃だつた。松島遊廓移轉に火をつける役割をしたのは彼であつたが、その後移轉問題は、彼から岩崎、高見の手に移つた爲、彼は疑獄の渦中にはいらずにすんだ。

彼が疑獄の渦中にはいらずにすんだ事は、結果に於て、彼の政治的生命の自殺だつた。岩崎が病歿しなかつたなら、決してこの結果にはならなかつた。親分として岩崎は、彼を援護してくれたであらうが、今は誰も彼を援護してくれる者がない。

遊廓移轉問題の途中で手を引いてしまひ、親分の岩崎が疑獄で苦しんでゐるのを、乾分のくせに黙つてみてゐるとは、齋藤と云ふ奴、義理人情に缺ける人でなしだ。こんな人間を黨人にして置く譯にはゆかないと云ふので、彼は黨を除名されてしまつた。

それ以後の齋藤は、たゞく悲惨な一路を辿つた。

今日の彼は前代議士の肩書を、悲しくもパンのかせにして、議政壇上でふるふべく夢見てゐた雄辯を三百代言と云ふ職業に使つてゐる。所謂政治ゴロに齋藤は轉落したのである。

(附記、此處に拉し來つた齋藤松五郎なる者は勿論假想的人物だ。この假想人物を中心にして當時の腐敗せる政黨を描破した譯だ。幾分でも警世の資になるならば幸である。)

財界膝栗毛の巻

大富豪初代物語

日本の大富豪、即ち、その横綱大關格と云ふなら、三井、三菱、住友、安田、大倉、古河この六大財閥であらう。此の六大財閥が、始から今日の富豪でない事は勿論、此の財閥の基礎を築いた初代の血闘史がある譯である。

なる程、日本大財閥の基礎を築く程の人物、その慧眼と努力は、凡そ凡人の企て及ぶものではなかつたらうが、彼になに程の非凡の才あるとしても、時世の波にのり、時をえなかつたらば今日の大をなす事は出来なかつたらう。

運命とは魔訶不思議なものである。

が、とも角、財閥膝栗毛の最初に、彼等大財閥の初代奮闘傳を簡単に綴る事にしやう。

一、反物切賣で當つた三井

三井家の祖先は大和近江に住んでゐた。その高俊の代に至つて伊勢に移り、越後屋と稱し、酒造業を主とし金融業をしてゐた。

此の高俊の子に高利と云ふ者がゐたが、これが實に機略縱横なる才物であつた。三井家今日の大は、此の高利に負ふ處非常に多いのである。

高利は、延寶元年に江戸本町に越後屋呉服店を開業し、次いで天和三年には駿河町に移轉して兩替屋を兼業し、京都大阪にまで支店を開いた。

當時の呉服屋は今日の呉服屋とよ程異つて、習慣上呉服は反でなければ一切賣らないものになつてゐた。袖一つ、腰巻一枚を求めるにすら、反買ひをしなければならぬと云ふ不便があつた。そして又、盆と暮の二期勘定であつたから、商品の値が張ると云ふ結果になる。此處に着眼したのが高利だつた。

「商賣の秘訣此處に有り」と、以後商品一切を現金商賣にする事にした。又、反物も買ひ易いやうに小布賣にした。そして「小袖一つ、襦袢一枚分でも自由に切賣致し候ナリ」と大書した

看板をあげた。

此の商法は斷然江戸の人氣を呼んだ。忽ち千客萬來で、越後屋は素晴しく繁昌した。

一方、三井兩替店の方は、主として朝廷や幕府の御用金融に従て、特種關係にある二三の大名を除くほかは「大名貸」と云ふものをしなかつた。幕末にほど近かつた當時は、既に大名の地位が浮動してゐたのだつた。かくて三井は、御用爲替、兩替その他呉服店等の利益に依つて莫大な富を獲得して、徳川時代に於ける有力な財閥になつてゐた。

維新の大業が、薩長二藩の力が主動となつて、なしとげられた大革命であることは、既に認められ異論のない事であるが、此の蔭にあつて、當時の財閥が側面的に盡力した功績をも認めやらなければなるまい。

三井家は、新政府の爲に財政上盡力大いに努めたのである。これがため、明治四年六月大阪に新設された造幣寮の御用を命ぜられ、新貨と、地金銀との交換やら、地金銀の廻漕等に當り政府との間に密接な關係を持つ動機ともなつた。

明治九年には、資本金二百萬圓で三井銀行が創立された。これが、我國私立銀行の濫觴である。その他、三井家は物産會社、各種工鑛業等諸種の事業に進出して、今日では、公稱資本十

七億圓の大財閥である。

一、達眼の彌太郎が築いた三菱

三菱王國を語るとするならば、傑物中の傑物岩崎彌太郎の時勢を達觀した、敢爲精悍な迫力によつて、事業を押し通していつた事に歸因することをあげねばならぬ。

彌太郎は天保五年十二月、土佐井口村に生れた。安政五年江戸に出て安積良齋に學び、歸國後は吉田東洋の知遇を受け、後藤象二郎、坂本龍馬等の志士と親交を結んだ。

彌太郎の青年時代は尊王倒幕の熱烈の士と交つて、ひと角の憂國の志士だつた。當時の彌太郎が長じて、財界の大立物にならうなど誰が豫想したであらう。彼、本人ですら豫想しない處に運命は巡つたのである。

即ち、維新の風雲急を告げ、後藤象二郎が長崎から京都に出るまで、三十四歳まで彌太郎は井口村に流浪し、徒に悲憤慷慨をしてゐるだけだつた。その彼を後藤が取り立ててやつて、土佐藩の長崎留守居役となし、會計まで一切委せられた。さうして、維新の騒動の裡に、馬廻役仕置家老と抜んでいつた。

藩籍奉還はんせきほうくわんの後は土佐藩の小参事に任ぜられた。そして廢藩置縣はいはんちけんの折は、後藤の計らひで、藩が外國から負つてゐた借金全部しやくきんぜんぶを彌太郎に負擔させられた、その代償として、藩の汽船きせん十一艘と、大阪にある土佐商會の土地、建物等をもらう事になつた。

此處に於て彌太郎は、一生を商人としてたつ事に決心けつしんを固めた。彼こそ武士ぶしから轉じた商人である。此の武士魂があつてこそ、九十九商會を起し、海運業に不敵の商法を執行する事が出来たのである。

明治四年には、これを三菱商會と改め、遂に今日の、三菱王國を築く基礎工事をなしとげた彌太郎が、最も大膽不敵だいたんふてきな買物をなし、又それを當てゐるのは、八十四萬圓で、外人ぐわいじんから上海航路を買取つた事。百二十萬圓で高島炭鑛たかしまたんかうを買收した事である。そして彌太郎歿後ぼつごに買つた丸の内界限とを加へて、三菱の三大買物と云はれ、これが何れも大當りに當り、此處に莫大な利潤をせしめたのである。

丸の内一帯は、今でこそ高層華麗の大建物が櫛比し、土一升の金一升土地柄になつてしまつたがかつての丸の内界限かいはいは大名小路と稱して立派な上屋敷かみやしきのあつた所である。それが後に陸軍省の所有地になつて、草茫茫とはえるがまゝの野原だつた。

明治十九年。この時陸軍は所處に兵營を新設するため、百二十萬圓程の金額が入用になつた。陸軍では、此の金策の爲に、丸の内一帯の九萬坪を三菱に買ひ取れと交渉したのだつた。日頃、陸軍には恩義がある三菱、それを素下なく斷る譯にもならない。彌太郎の弟彌之助も、流行にこれには決心が付き兼ねた。そこで帷幄ひやくの謀臣ぼくしん莊田平五郎に相談すると、「處もあらうに陸軍のたつてのたつみとあれば致方がないから買ひなさい」と云ふ事に決つて、坪十二三圓で買ひ取つた。此の土地とちが、現在では二億圓の大財産になつてゐる。

三、銀銅吹き分けで當つた住友

住友家の祖は武内たけうちの出で、姓は平氏たいらと傳へられてゐる。高望王たかもちわうから十八代の孫が備中守平忠重たけちかむねで、その曾孫政友まさともと云ふのが商人となつて京都に住み、富士屋と稱して書籍鐵類しよせきてつるゐ及び藥商を營んだ。政友には男子がなかつたので、當時堺さかいの浦うらにゐて交易業をしてゐた姉婿あねむこ、蘇我理右衛門そがりえもん友以とももちを養子となし家督を繼した。

この友以こそ、今日の住友財閥の祖とも云ふべき人である。

友以の父理右衛門は、廣く交易業をしてゐた關係上南蠻人との交遊も多く、白水と云ふ南蠻

人について鼓銅の術と云ふ、銀銅吹き分けの秘術を習得した。これに依つて始めて製銅所を起し、恩人白水の二字をもつて來て「泉屋」と稱した。時天正十九年で、我國最初の銀銅吹き分けである。

友以は、研究心に富み、霸氣に富み、進んで事業を開拓していつた。即ち、慶長の頃から長崎平氏に往來して外人と交易し、寛永七年には大阪淡路町に製銅所を設ける等、海外にも製銅を輸出するの企業振だつた。

寛文二年には、友以の子友信が備中國吉岡に銅山の開坑事業をなすに至つた。

元祿四年には、友信の子友芳が伊豫の國別子に銅山を開發した。これが文字通りの金穴であつた故、爾來住友家は別子銅山に巨額の投資をなして採掘に従ひ、遂に大阪に於る大財閥にまで敲きあげた。

其後、幕府から御買米、御用金等を命ぜられ、又一方に兩替業にも好成績をあげ、製銅製品の販賣と俱に、着々として莫大な産を築く事になつた。

そして明治二十八年には、兩替業を銀行組織に改め、大正十年には従來の住友總本店を住友合資會社に変更し、住友系諸事業の持株會社となし、總事業を支配統轄する總本部となし、資

産三億を擁し、三井、三菱に次ぐ住友財閥を、がっちりと築いてしまつた。

四、算盤から割出された安田王國

安田王國は先代善次郎の、赤手空拳に依つて築かれた偉業である。

善次郎の生涯と云ふものは、越中富山の奥から、十七の歳志を立て上京して以來、大磯の別邸に於て朝日平吾の爲めに斃るまで、波瀾萬丈を極め、立志傳中の傑物であつた。

善次郎の主義は、總てが算盤である。算盤から割出される處の合理的數學以外にはなかつた。そこには情調もなければ、人情もない。恰理一點な徹底と努力だけだつた。

善次郎は、天保九年十月九日に富山に生れてゐる。幼名を岩次郎と稱し、即ち安政三年の十七の歳に、日本橋のある兩替屋の小僧になつた。さうした彼の唯一の希望は、兩替屋の露店を出す事であつた。

此の頃より既に善次郎は凡庸の器ではなかつた。衆に秀でるものがあつた。そして、日本橋小船町に兩替屋の露店を営んだ。これがそも／＼安田銀行の濫觴であつた。

明治の初年には、仙臺藩の會計用達、兩替所の總世話係に選ばれ、同九年には、第三國立銀

行の創立に際し頭取に任ぜられた。同十三年には自己經營の安田商店の組織を一變して、安田銀行と改め、次いで、第四十四、四十五、七十五の諸銀行を第三銀行に合併し社運隆盛となつた。

又、日本銀行、南滿鐵道以下諸銀行會社創立に關與し、しばしばその重役に推され、財界に不拔の地位を占めるに至つた。

善次郎の偉かつた事は、どれ程好條件が揃つてゐても、銀行業以外には、他の事業に手をださなかつた事である。銀行が事業を兼營する場合、その兩立に危険の俱なふ事を彼はわきまつてゐた。

粗食粗衣に甘じ、冗費を省き、虚榮を戒めた、善次郎には、所謂財界人の如く、華麗な情炎史もなければ、享樂もなかつた。唯一念銀行業が、善次郎終生の伴侶であつた。故に世間一般からは、冷酷な人間だと惡罵を受けてゐた。そして、それが決して當らずとも云へないやうな彼の生涯であつた。

その爲か、どうかは知らないが、大正十年九月二十八日、善次郎は刺客の劍に斃れた。

善次郎歿後、遺言狀に依つて、東京市の事業に三百五十萬圓を寄附する事になつた。

此の一事をもつて、善次郎を取巻の連中は、善次郎を辯護しやうとするが、こんなことは財界行脚に、功なり、名とげた者の一種の定型であるとも解されるではないか。

五、緑茶の宣傳に盡した大倉

安田善次郎の生涯が陰性なら、大倉喜八郎の生涯は陽性である。

そして、此の兩人ともが裸一貫の赤手空拳組であり、少年時代に、たがひに未來を語りあふ親友であつたと云ふ事も奇縁である。

喜八郎は十八歳の時、越後新發田から江戸に登り、麻布飯倉の中川と云ふ齋屋の僧に住込んだ。

喜八郎と善次郎の邂逅は此の時である。即ち、本町一丁目の茶飯屋で此の二人の前掛小僧は落合つた。そして善次郎は、一生の願をして、人形町あたりの大通りに油屋と、兩替屋の店舗を持ちたいと、喜八郎に話した。此の小僧二人が、後日大財閥の大立物となつたのだから、まさしく英雄の卵の會見とも云ふべきだ。

喜八郎は、敏捷豁達の氣象の持主であるから、やる事が總て積極的である。そして先見の

明があるのである。維新の兵亂と同時に、彼は敢然として、鐵砲その他の兵器の販賣に従事した。續いて、征臺、征南、日清、日露の戦争には御用商人となつて巨利を博し、一躍財界の表面に浮上つて來た。

明治五年には歐米諸國を巡歴し、新思想、視界を廣め、大倉商會を設立して、彼は財界に飛躍する土臺とした。

我國の製茶の信用地に墜つるや、明治十七年には二度米國に渡り、喜八郎は挺身その性格を發揮して、數萬餘の私財を投じ、官民、新聞記者等を招待し、饗應に努め、日本茶の良質茶香を萬座の中に宣傳大いに努めたのである。

當時、これ程はでな財界人があつたらうか、彼の放れ業に日本財界は拍手したのだつた。又明治四十五年には、支那の三百萬圓借款に應ずる等、彼の眞骨頂を益々發揮するのだつた。

一時は、大日本ビール、東京電燈、帝劇、帝國ホテルを牛耳るなど、又公共事業にも貢獻し財界の華やかな表面を、より華やかに渡世する、人間味多量の喜八郎だつた。

精力又絶倫、食けもあれば色氣もある、齡九十にして赤城山を征服し、九十一にして蒙古を踏破するなど、壯者も凌ぐはつらつたる元氣で、その生涯を閉ぢた。

喜八郎は、昭和三年二億の富を築き、九十二歳の長壽をまつたうした。

六、無一文から鑛山王の古河

古河市兵衛は足尾銅山で高名だ。

足尾は幾度争議で血を流した事であらう。だが、それ位では古河王國は貧乏揃ぎもしない。

幸生銅山、八十銅山、九十郎畑銀山、そして足尾銅山を併せ、明治十八年には阿仁銅山、院内銅山を買収するなど、今日では六十九坑の支配權をがっちり握り、鑛山王國をほしいまゝにしてゐる。

その古河市兵衛は、天保三年京都岡崎村に生れた。幼名木村幸助である。木村家は代々庄屋を努め豆腐製造を家業としてゐた。

市兵衛は十八歳の時、奥州盛岡に赴き、叔父のもとに生絲の買入を手傳つてゐた。これがきつかけとなつて、生絲商小野組の番頭古河太郎左衛門に、その氣性を惚込まれ、たつての懇望によつて古河家の養子となつた。

そこで名を市兵衛に改め、養父に替つて小野組に仕へ、精勵恪勤をみとめられ支配人に迄出

世をして来たが、この時小野組は不幸破産してしまつた。

一時は小野組の支配人であつた市兵衛も、主家の破産の爲、ルンペンにまで成り下がり、下宿屋の煎餅布團の中に己が身をもてあましてゐたのであつたが、流石は古河財閥の當主にまでへのぼる大器であつただけに着眼がふるつてゐる。

何事かを畫策した彼は、一日相馬藩の家令を尋ねて、「過日小野組が破産につきましては迷惑を掛けてすまなかつた。それで、御當家から借用してゐた三萬圓の代償に、越後の草倉銅山を借金形に御當家の名義に書替へて居つたが、實はその銅山を經營してみたいにつき、借用さして戴けないか」と申込んだのである。處が、家令が言ふに「貴方には銅山を掘るだけの資金があるか」と。

此の時市兵衛には一文の金もなかつた。だが策士たる彼は言下に、「正金二萬圓程の用意がある」と答へ、家令を信頼さして草倉銅山を借用する事に決定した。

その足で市兵衛は、第一銀行に頭取の澁澤榮一を訪れ「草倉銅山の採掘權が私の手にはひつたから、二萬圓程融通して欲しい」と申込み、草倉銅山と二萬圓の大金を、彼は、彼の術策を持つてまんくと濡手であわのつかみ取りをやつた。

以後好調の潮に乗るやうに、市兵衛は今日の古河財閥を築きあげたのだつた。

『糸平』の豪遊

「糸平」と云ふなら、かつては横濱の豪商であり、天下の「糸平」で通つた絹絲成金の田中平八の通稱であるが、彼も明治七八年には他界してゐる。

二代目紀の國屋文左衛門と謳はれる程、田中平八の遊興は底抜けの豪遊であり、又その遊興には意氣なものがあつたやうだ。とも角も、成金になると餘程嬉しいものとみえて、此の糸平に限らず、日露戦争當時の戦争成金「鈴久」歐洲戦争の船成金ドロ龜こと、山下汽船の山下龜三郎など、その成金の筆頭でもあるし豪遊の筆頭でもある。

金を湯の様に、ばら撒く、又はばら撒けると云ふ事は、貧乏人大衆のやつてのけられない事をやつてのけられる痛快味があるのだらう。仕掛花火のやうに、闇空に華やかに咲いた瞬間を所謂成金と云ふものは、此の思ひ上つた豪遊と云ふもので印象づけるものであらう。

以下、田中平八の當時の遊興の一端を記してみやう。

「根笹の遊び」と云ふものが、いつの時代からあつたものか知らないが、先づ笹の葉を枝のま

、澤山座敷に持込んで来て、その笹の葉に笹の葉の數だけ紙幣をぶらさげる。そして花魁、藝妓、胡間などに藝づくしをさせるのである。藝の上手な者程餘計、その場で紙幣がもらへると云ふ趣向である。

であるから、此處激烈な闘争が點綴されて来る。唄ふ者、三味を引く者、聲色を使ふ者等、座敷は遊藝の闘争場裡となる譯だ。

又變つた遊興は、吉原大文字屋の如き遊廓を買切つて、嗜好は萬事古風と云ふのである。花魁衆は全部本襦袢を着、ドンチャン騒ぎでお開きとあつて、各自銘々が仲良く敵娼と部屋にはいる。さうすると、吉原選り抜きの新内藝者が、小粹の新内を唄ひながら、廓の庭を練り歩くと云ふ圖。

そのうちに、聲色の上手な胡間が、音羽屋あたりをまねて庭で唄ふ。按摩の笛の音が、拍子木の音が、此の合の間に情調纏綿と流れて来て、その昔の大江戸の、夜の吉原の雰圍氣を髣髴させやうとする。その裡を旦那方が夢を結ぶと云ふ譯。

此の如く糸平の遊興は、享樂の豪華版でもあつたらうが、又小粹でもあつた。

財界膝栗毛悲歌

余は六十歳にて時世の推移及び現社會の状態並びに生活と處世の困難なる事を悟るを得たり。然れども時すでにおそく、如何に己れが、無智蒙まいにして先見の明なく、意志薄弱にして勇氣なく、優柔不斷にして、克難の意氣に乏しく、いはゆる馬鹿なりし事、今に至り知るを得たが、既に初老に達し、加ふるに身體の健康を害し、頭腦明せきを缺く、精神身心ともに非常に衰弱を來し、到底再起の勇なく、全く社會に無用の人間たるを自覺し、國家一家に對し、實に申しわけなき事、こゝに斷然精算す、妻子は、教育を怠る事なく、國家社會の爲につくせ。——原文——

これは遺書である。そして此の遺書が誰の遺書であるかを、記憶にある人もあるであらう。去る昭和八年十一月四日、東海道線の列車が横濱に來やうとする時、カルモチンを多量にのんで苦悶してゐる紳士が発見された。そして列車が東京に著く頃、此の紳士は遂に冷たくなつてゐた。

その懷中から出たのが前記の遺書である。

神谷鞆吉と云ふなら、即ち銀座の神谷ネル店である。京大阪はもとより、淺草にも支店をもち、銀座屈指の大老舗の主人公であり、財界にも華やかにうつつて出た時代もあつたのだが、その神谷鞆吉の末路が列車内自殺である。

銀座が柳と、赤煉瓦の銀座から、今日の日本の銀座になるまで、浮沈盛衰のことはりに依つて流れて來てゐる。浮く者、沈む者、喜怒哀樂の表情が走馬燈の様に巡つて今日の銀座が出來たのである。

神谷ネル店は、銀座十指の中の大老舗であつたが、あの大地震災にうたれ、續く財界の混亂時代に、遂に産は傾むいてしまつた。

神谷鞆吉のカルモチン自殺こそ、財界興亡膝栗毛の悲歌のテーマでなければなるまい。

悲戀の郷誠之助

「金色夜叉」の貫一は悲戀の末が、高利貸となり世をすねて渡つた。だが同じ悲戀の誠之助は奮然努めて財界の大御所にまで出世した。即ち貫一よりは誠之助が人間らしくつたと云へる。

その失戀が固で、郷誠之助は今日でも無妻主義者である。一生を嫁とらずに終る彼の純情口

ーマンスがある。

郷誠之助と云ふなら財界の世話役、時事新報が、ぶすくと燻らした番町會の頭目？ そして、彼を取巻く番町會員（こんなものがあつたか無かつたか）連中が「帝人事件」の裡にひきづられていつた……。

とも角、郷は財界の惑星だつた。今日こそ財界から離れてしまつた彼ではあるけれど、かつての財界の波動の裡に必ず彼が一枚加はつた。先づ、郵船と東洋汽船の合併、東京電燈と東京電力の合併、東洋モスリンの整理、はては十五銀行の荒療治等、等、財界世話役の役目をやつてのけたのである。

郷の生家は、岐阜懸稻葉郡里町、彼の父純造は、故松方正義の下に大藏次官までやり、男爵まで授かつた名譽の家柄である。

誠之助は、少年時代より非常に腕白者だつたさうである。仙臺の中學、京都の同志社、東大豫備校を放蕩のため、いづれも中途退學されてゐる點、なか／＼の不良であつたのもうなづける。

さうして又、早熟であつたと云ふ事は誠之助は十六の歳に熱烈な戀愛をしてゐる。相手は大

村藩士中村小左衛門の娘のぶと云ふ美少女。彼女と惚れた仲になり、堅い夫婦約束までしてゐたと云ふのだから呆れた不良少年であつた譯だ。

當時、誠之助の父は大藏省の役人であり、相手の父がやはり大藏省の、彼の父の下役であつたさうだ。

此の誠之助と娘のぶは俱に或る私塾に行つてゐた、そこで二人が見染めあつた。三年後には二人は屹度夫婦なりませうと、堅い約束をしたのであつたが、その三年がたつた時、娘の父は娘を他に嫁入りさせやうとした。駭いたのは彼と娘である。

誠之助は両親に向つて、娘をもらつてもらふやう願ひ、両親の許しを得、彼の持前の強氣は斷然娘の父に膝詰談判をしたのであるが、何程上役の息子であるとは云ひながら、不良少年には娘をやれないと娘の父は思つたのだらう。

娘は頑強に結婚に反對したので、父が持だした結婚話は破談になつたが、娘は九州の大村に送られてしまつた。誠之助の居る東京に娘を置く事が危険だと、父は思つたのだらう。誠之助から離された娘は、世をはかなんで郷里で自殺してしまつた。

大村の消印のある遺書が一通、彼の手にとどけられた。

私は貴方と添はれぬ不縁をかこつて死んでゆきます。時々思ひ出して下さいませ。墨の薄

いのは命の消える薄墨の……

此の時娘のぶは十八だつた。

失戀の傷手を胸に多感な少年誠之助はハイデルヒイーに留學した。華やかな留學生となつても彼の失戀はなかくにいえなかつた。ハイデルヒイーの街で、誠之助は失戀苦を女と酒にひたり暮したのでつた。

そして、飄然彼はさとの處があつて、遂に今日の地位を築いた。だが悲戀以後、彼は誰に進められても妻を迎へなかつた。

財界の異色小林二三

郷誠之助の出世は、悲戀に拍車をかける彼の偉らさにもあつたが、又彼を財界に幸ひさせたものは實に大藏次官と云ふ親父の偉光であつた。

そして小林一三も恵まれた家庭の一人であつた。小林は甲州山梨に生れてゐる。山梨を云ふなら甲州財閥の巨頭根津嘉一郎が居る。この根津家に屬する田邊七六、勸銀理事田邊加多丸を

異母弟に持つて生れたつものだから、彼の財界出世も早かつた。

彼も、郷男の如く無類の暴れ者だつた。明治二十五年の慶應出身だが、三田時代は随分暴れたさうである。だが、此の暴れ者に文才があり、起業の才が加つたのだから、彼の今日が此處に胚胎したのである。

關西にゆくなら小林の人氣は素晴らしく「今太閤」と稱せられる。現在彼が社長の椅子にあるのは東電、阪急、寶塚であるが、彼は四六時中動き策動してゐなければやまないと云ふ絶倫の活動家である。

彼の活動家を證明するものは、東京寶塚の出現である。彼はなぜ東寶を計畫したか、と云ふならばこれには次の如き理由がある。

かつて東電の社長は郷誠之助であり、副社長が小林一三だつた。郷が財界を去り、そのあとを小林が社長になつた。東電と云ふなら日本きつての大會社である。此の屋臺骨を、小林が社長の名の如く自由に出来たなら、彼は決して東寶の計畫をしなかつたであらう。東電の社長と云ひながら、實權は小林になく、去つた郷に残つてゐるのである。郷の陰然たる勢力が今だに東電を去らないのである。その東電の中にあつて社長の小林は、何にかにとやりづらかつた。

社長であつて社長の實權を握ることの出来ない不満が、此の東寶起業に爆發して來たと云ふのが真相である。

彼の對社會の人氣と、財界の人氣とは比例しないやうである。財界に於ける彼の地位は、實の處背景に根津があるからだ。

以上の様な點に参考をして、彼が東寶に於ける活躍振りに着眼するなら、何かうなづけるものがあるだらう。即ち、彼の東寶起業には功罪あひ半するものがある。

彼が日本劇場を買収し、東寶關係の劇場と併せアマニューズメント・ストリートを創作した事又劇界の痛である處の花柳界をしりぞやうとしたあたり（これは小林の負けになつたが）此の二つが彼の功績とするならば、俳優ひつこ拔の如き、興行師的姑息手段は、彼の大實業家的存在に一點の汚點を印するものである。

歌劇が日本で最初に公開されたのは帝劇であつた。伊太利のロツシーと云ふ歌劇の先生を帝劇が招聘した。

此の歌劇を見物してゐたのか小林だつた。しかし、此の歌劇が非常に不人氣だつた。誰も拍手を送らうとする者がなかつた。その裡に混つて學生だけが、これを熱心に眺め、たまさか拍

手してゐるのである。この情景を見てゐた小林は「これだ」と横手をうつた。

阪急のドル箱は寶塚である。

小林が創案した少女歌劇を大阪市内に置かず、草深い寶塚温泉に持つていつた事は、實に一石二鳥の名案だつた。

いかに小林が起業家として傑出してゐるか云ふ事はこれで解るだらう。

小林（東寶）帷幄の臣に、丸木砂土、青柳有美がゐる。

宣傳屋伊藤ハンニの末路

株でどの位儲けたものか、伊藤ハンニは自己宣傳して百萬圓と云ふ、その大枚を握つた彼が股旅草鞋で財界膝栗毛とお出掛けなすつたのは笑止千萬である。

根津が赤字で持て餘した國民新聞を彼は何程で買つたものか、とも角社長様になつてしまつた。新聞は忽ち英雄伊藤ハンニの廣告である。

新聞と併せて彪大な雑誌は出す。當時の彼の鼻意氣あたるべからず、世人を啞然たらしめ、天下の英雄にならうとしたが、若冠三十餘歳の彼に金の彈丸が、あとから／＼と續くものなら

彼の大胆な自己宣傳をもつて英雄に成りあがつたかもしれない。

此の時、彼にとつて悲しい事に財布の底が空になつてゐた。一年半程で彼の馬脚が現れた。彼が愛惜あたはざる國民新聞を追はれてしまつた。

だが一度得た國民新聞の社長の肩書きは偉大だ。そして持前の大膽不敵の面魂とで、財界の底をもぐつて歩いた。

何處からどう金を持つて来るものか、彼の生活様式はいつでも派手だつた。ハンニイズムなる朦朧たる主義を宣傳して歩き、大毎の如き大新聞の一頁を占めて自己宣傳をする。

滿洲に飛んでは、滿洲の大官の間を縫ひ廻り、例の男装の麗人川島芳子と結婚するとかしないとかの噂を生む。

又、日本にもどつて來ては、株界に忽然と現れる惑星である。財界では、彼を問題にする者がなかつたが、伊藤ハンニと云ふ男、どんな突飛な眞似をするかわからないと云ふ譯で、一部の財界人は極度に彼を警戒してゐた。

その彼にも末路が來た。

新聞は、詐欺で警察にあげられたと報じてゐる。

勝てば官軍、負ければ賊軍。

即ち、伊藤ハンニは負けた賊軍である。宣傳屋であらうと、何んであらうと、あの若冠をもつてあそこ迄のし上げた藝當は、今日の若い青年には出来る藝當ではない。

伊藤ハンニが活躍しやうとするには、現代は餘りに組織だち、餘りに整然としてゐる。もしも、彼の大膽不敵な面魂を維新當時に置替へるとしたならどう云ふ結果になつたらうか。

彼は或は、政界か財界に勝つた官軍になつてゐたかもしれない。

好漢おしむらくは時世が悪かつた。

財界の表面に忽然と浮き、財界の底を沈んで歩いて、遂に詐欺漢になる迄、彼が世の噴飯を買つたにしても愉快な存在であつた事は確實だ。

人々を求むる新大陸は招く

定價二十錢

送料二錢

満洲の就職手引き

満洲へ雄飛して見たいがどうしたらよいか——と迷つてゐる人は本書をお読み下さい。本書はきつと貴方がたの良い道案内役を勤めるでせう。小學出も、中學出も、専門學校出も、乃至大學出も、又は現在職を持つて居る方も、新興國満洲の職場がどんな状態であるかを知つたならばきつと雄飛せずにはゐられませんか。

東京市芝區三田四國町二六

發行所 東亞書房

振替東京八八三八〇番
電話三田(45)三九八九番

早おく求め 全書店で販賣して居るす
切實のの際には直接本房へ御注文

吉岡義一著	非常時日本の外交陣	定價十錢 (送料二錢)
高倉晃著	逆巻く太平洋	定價十錢 (送料二錢)
小牧琢磨著	財界巨星出世譚	定價十錢 (送料二錢)
山門王吉著	怪奇犯罪實話集	定價十錢 (送料二錢)
東亞書房編輯局編	見よ！此躍進日本の姿	定價十錢 (送料二錢)
東亞書房編輯局編	常識讀本・人生百課事典	定價十錢 (送料二錢)
山門王吉著	明朗爆笑大會	定價十錢 (送料二錢)
牧山允著	女スバイの暗躍	定價十錢 (送料二錢)
秋月正雄著	要領百パーセント戦法	定價十錢 (送料二錢)
中村武郎著	東西偉人逸話集	定價十錢 (送料二錢)
東亞書房編輯部編	皇國軍人に懇ふ	定價十錢 (送料二錢)
陸軍中將堀内文次郎閣下述	大西郷を語る	定價十錢 (送料二錢)
箱館小史著	百年後の人種戦争	定價十錢 (送料二錢)
奈緒順著	政界財界膝栗毛	定價十錢 (送料二錢)

發行所 東京芝区三田四町二番六 東亞書房

御注文は 代金引替は御容赦を
切手代用は二割増に

五島富士夫著	二・二六事件の記録	定價十錢 (送料二錢)
海南隱士著	組閣難の真相 廣田内閣はどうなる	定價十錢 (送料二錢)
秋月正雄著	千波萬瀾の生涯・人間高橋是清	定價十錢 (送料二錢)
齋藤一郎著	遭難した内大臣 齋藤實とはどんな人か	定價十錢 (送料二錢)
頭山滿翁述	重大國事の秘密を語る	定價十錢 (送料二錢)
村田和雄著	歐洲の風雲・世界大戦は起るか	定價十錢 (送料二錢)
五島富士夫著	國際珍聞奇聞集	定價十錢 (送料二錢)
滿蒙事報社編	謎の秘境・蒙古の全貌	定價十錢 (送料二錢)
秋本孝雄著	若返り法とホルモンの話	定價十錢 (送料二錢)
山門王吉著	實話讀物・職業麗人純情集	定價十錢 (送料二錢)
斯波雪夫著	國際情緒・ハルビン物語	定價十錢 (送料二錢)
片山哲平著	映畫スタア千夜一夜	定價十錢 (送料二錢)
山門王吉著	戰術奥の奥・外交は是て行け	定價十錢 (送料二錢)
加藤弘一著	軍事爆彈・護れ祖國日本	定價十錢 (送料二錢)
奈緒順著	世間の裏をのぞく	定價十錢 (送料二錢)
須山滿洲男著	風雲を孕む外蒙古	定價十錢 (送料二錢)

發行所 東京芝区三田四町二番六 東亞書房

滿蒙事報社編

定價五十錢 送料五錢

學資と就職の心配ない

滿洲官費學校案内

小學校又は中等學校を卒業して更に上級學校へ進まうとする者にとつての難關は何と云つても學資です。本書は學資のいらぬ然も就職率は百パーセントといふ滿洲の官費給費學校を詳細に懇切に紹介したものです。

發行所 東京市芝區三田四國町二六 東亞書房

振替東京八八三八〇番
電話三田(45)三九八九番

滿蒙事報社編 定價五十錢 (送料五錢)

滿洲官費學校案内

滿蒙事報社編 定價二十錢 (送料三錢)

小資本で滿洲の職業百五十種調べる

滿蒙事報社編 定價二十錢 (送料二錢)

人を求むる新大陸は招く

滿洲の就職手引き

月刊 滿蒙事報

一部三十錢 (送料二錢)

政界財界膝栗毛

(定價十錢)

昭和十一年六月八日印刷
昭和十一年六月十一日發行

著者 奈緒順

發行所 東京市芝區三田四國町二六 角田恒

印刷所 東京市四谷區本村町四 玄眞社

東京市芝區三田四國町二六

發行所 東亞書房

振替東京八八三八〇番
電話三田三九八九番

鐵道各驛ホームスタンド一手販賣

鐵道保養會

Printed in Japan



東京 東京 東京 東京

3
4